

工学系学生国際交流基金報告書

派遣者氏名:伊達 浩志郎	
所属専攻・研究室・学年:通信情報工学専攻 國枝・一色研究室 修士1年	
派遣先大学・専攻: 国立台湾科技大学	
受入教員名: 村上 理一教授	
派遣期間:平成 27年 08月 10日 ~ 平成 27年 08月 20日	
申請カテゴリー: <input type="checkbox"/> (C1)SERP <input type="checkbox"/> (C2)AOTULE <input type="checkbox"/> (C3-a)部局間協定校 <input type="checkbox"/> (C3-b)全学協定校 <input type="checkbox"/> (C4)その他	
研究(プロジェクト)題目: 国立台湾科技大学サマースクール	

- ・ 帰国後1か月以内に工学系国際連携室宛 (ko.intl@jim.titech.ac.jp) にMS Wordファイルにて提出ください。
- ・ SERPで派遣された場合は、受入教員の評価書も添付して下さい。
- ・ この表紙を含まず、ページ数は2~4ページ、ファイルサイズは3MB以内として下さい。
- ・ 研究室や宿舍内の様子の写真、図表、イラスト、滞在中のその他の写真などは挿入可です。ただし、それらを掲載する際には簡単な説明を加えて下さい。
- ・ 提出された報告書の2ページ目以降を工学系のホームページに掲載いたします。また、別途、クロニクルへの執筆をお願いすることがあります。

報告書必須記載事項

- ・ 派遣大学の概要(所在地、創立、大学の規模など)
- ・ 所属研究室での研究概要とその経過や成果、課題など
- ・ 所属研究室内外の活動・体験(日常生活・余暇に行った事など)
- ・ 留学先での住居(寮、ホームステイ等)、申し込み方法、ルームメイトなど
- ・ 今回の留学から得られたもの、後輩へのメッセージ、感想、意見、要望

**東京工業大学大学院理工学研究科
工学系学生国際交流基金報告書**

派遣年 : 平成27年
氏名 : 伊達 浩志郎
所属専攻 : 通信情報工学専攻
派遣先 : 國立台灣科技大學

(次ページ以降に記入してください。)

台湾科技大學サマースクールに行ってきました。

元々、このサマースクールは徳島大学と台湾科技大學の提携事業だったようで、台湾科技大學の徳島大学交流中心という部署の責任者が東工大出身の村上理一教授ということもあってか、今年から初めて東工大に募集が来たようです。

台湾は、現在ICT業界において目覚ましい発展を遂げています。日本で有名な台湾の企業と云ったら、やはりASUSではないでしょうか。格安で高スペックのスマートフォンは、使っている方も少なくないと思います。

そんな台湾における工学系のトップとも言える台湾科技大學は、台北市の南側のとても小さな敷地に存在しています。敷地を20分も歩けば、一周できてしまいます。しかし、校門を通り抜けると、奇抜なモニュメントがあったり、やけに透明度の高い建物があるあたり、東工大と似た雰囲気が感じられます。

東工大と違うところは、大学敷地内に学生寮があるところです。私たちは、国際学生会館という、留学生用のゲストハウスに滞在させてもらいました。部屋はとても綺麗で、滞在期間とても快適に過ごすことができました。驚くべきことに、日本のNHKが見られました。石垣島が近いので、電波が拾えるのでしょうか。部屋にいれば、日本にいる環境と全く変わりません。しかし、部屋の窓を開けると、隣にある農業研究施設から、動物園の匂いがします(笑)。

サマースクールの内容は、主に材料工学系の研究内容の紹介と、工場見学と、知的財産権に関する講義でした。特に印象的だったのは、サンレゴというプリズムの研究です。このプリズムを使って太陽光を集め、光ファイバーを用いて別の場所を照らすという研究です。現在、家の屋根に太陽光発電パネルを取り付け、その電力を使って部屋を照らすというのが主流です。これをサンレゴパネルに替えるとどうなるでしょう。太陽光を集めてほかの場所に移すだけなので、エネルギー変換ロスがなく、非常にエコです。そして、部屋の中でも太陽光が浴びられるということで、植物工場などの農業光源と非常に相性が良いです。太陽が出ていないと使えないというデメリットはありますが、これは太陽光発電も同じです。

どの講義も、最後に科技大學の研究室公開が入っていて、実際の研究環境が間近で見られたのがとても有意義でした。

毎日の講義は17時には終わるので、夕食はサマースクールの学生で有名な夜市に行き、台湾の食文化を堪能することができました。どれも安くて美味しく、もう日本の中華街の値段では食べられないなあ、と思った程です。ただ、難点だったのは、メニュー表の漢字を中国語読みできないこと。漢字でその食べ物がどのようなものか見当はつくのですが、店員に注文を通すことができません。なんとか、英語や指差しで店員とコミュニケーションしましたが、小さな言葉の壁にぶつかりました。あとは、数詞を聞き取れなかったことも弊害となりました。しかし、一週間もいると、「多少銭？」と値段を聞いて、数詞を聞き取って小銭を出すくらいはできるようになります。夜中に一時間だけ勉強するだけでも、現地の言語でコミュニケーションを取ることができます。こんなに楽しいことはない！

日本に帰ってきた今は、スマホのアプリで中国語を勉強しています。一年後には流暢に話せていることが目標です。

月並みですが、留学で得られるものは、留学でしか得られないものだ実感しました。日本に近い台湾という国ですら、常識が異なってきます。それは、天候や、文化の歴史によって大きく作用するものですが、これによって、街の風景が変わってくるのが、とても面白かったです。例えば、台湾は短時間の大雨がよく降ります。そうすると、街の建物は、一階の部分が他より凹み、二階部分がまるで雨よけのように出っ張ります。勉学のため留学したのにこんな言葉をいうのは申し訳ありませんが、まるで完璧に作りこまれたテーマパークに入ったような感覚です。

是非、これを読んでいる学生には、どの国へ行くのかは関係なく、留学プログラムへ応募してみることを強く勧めます。どんなに短期間でも、必ず日本では得られない経験を持ち帰って来れるからです。



台湾の交差点にて。原付が格段に多いので、停止線と横断歩道の前に二輪停車スペースがあります。



学食の酸辣湯(25元)。屋台で食べるのより美味しかった。